

## 平成 21 年度 第 4 回常任委員会 議事録

日 時：平成 21 年 11 月 25 日（水） 14:00～17:00

場 所：土木学会 A 会議室

出席者：宮川委員長、岸幹事長、石橋、井上、入矢、大津、岡澤（代理：小川）、鎌田（代理：上野）、河合、黒田、坂井、堺、佐藤（勉）、島、下村、新藤、鈴木（基）、富田、西垣、二羽、橋本、丸山、宮内、横田、の各常任委員、佐藤（靖）、信田、服部の各幹事、村木（事務局）

配布資料：

4-0：平成 21 年度 第 4 回常任委員会 議事次第

4-1：平成 21 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事録（案）

4-2：平成 21 年度コンクリート委員会一般会計予算案

4-3：プレストレストコンクリート用シースの試験方法の土木学会規準（案）に対するコンクリート委員会  
常任委員会からの意見と対応

4-4：土木学会示方書委員会 収縮ケーススタディー作業部会

4-5：第 3 種委員会提案書

4-6：平成 22 年度全国大会共通セッションテーマの募集

4-7-1：平成 20 年度調査研究委員会の活動度評価の結果について（報告）

4-7-2：調査研究委員会の活動度評価要領

4-8：平成 22 年度事業計画及び予算要求調書

4-9：「循環型社会に適合したフライアッシュコンクリートの最新利用技術」講演会

4-10：国際構造工学会（IABSE）法人会員継続のお願い

4-11：JSCE-MACE 1<sup>st</sup> Steering Committee Meeting 議事メモ

4-12：ヒアリングプログラム

4-13：構造物表層のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会（JSCE335 委員会）第二期委  
員構成

4-14-1：若手／中堅実務者のためのコンクリート技術講習会 - 設計・施工の基本を学ぶ -

4-14-2：コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウム

4-14-3：極限を制御せよ！

「鉄筋継手」Vol.44 No.3, 2009.10

施工計画書作成支援パッケージ E-HELIOS

議事

### 1. 委員長挨拶

宮川委員長より開会挨拶があった。その中で、以下の小柳顧問のご意見が紹介された。

- ・ 昨今、「コンクリートから人へ」というフレーズがメディアに溢れている。これは、コンクリートか人のいずれかを選択させることに等しい表現である。実際には、Concrete or human ではなく、Concrete for

human であり「f」が抜けている。

## 2. 前回（平成 21 年度第 3 回）常任委員会議事録の確認【資料 4-1】

服部幹事から議事録（案）が説明され、修正なく承認された。

## 3. 審議事項

審議に先立ち、コンクリート標準示方書「施工編」が搭載された施工計画書作成支援パッケージに関わる印税の取り扱いについて、出版事業課の富田氏から以下の説明があった。

- ・ 2007 年版の施工編の搭載料として、平成 21 年度に関しては 440 万円が土木学会に支払われている。その 8%である 37 万 5 千円をコンクリート委員会に印税として支払う。
- ・ 印税の支払い期間は、毎年で、次期示方書改訂の 1 年前までとする。

### (1) 平成 21 年度予算案について【資料 4-2】

岸幹事長より以下の依頼および説明があった。

- ・ 計画通りの予算の執行をお願いしたい。
- ・ 後ほどご審議いただく新しい部会の立ち上げに伴い、予算を若干変更している。
- ・ 例年 1100 万の仕掛かり金を出版委員会からいただいている。昨年度は 360 万を使い残しており、それゆえ、来年度の仕掛かり金として 1500 万に引き上げた額を申請している。出版会計からは内諾を得ているが、予算委員会での議論はこれからであり確定はしていない。

### (2) PC シースの試験方法の土木学会規準案（修正意見対応）【資料 4-3】

鎌田委員の代理として、上野先生より常任委員からの意見とその対応について説明があった。これに対し以下の質疑があった。

- ・ PC 技術協会から意見はなかったのか。  
→ PC 技術協会からの意見は、西垣委員の意見の中に含まれている。
- ・ 今後の予定として、この規準案を土木学会論文集に投稿する。また、2011 年版の規準編に載せる。  
他に意見があれば鎌田委員に送り、その対応に関しては小委員会に委ねることが確認された。

### (3) 収縮ケーススタディー作業部会の設置【資料 4-4】

宮川委員長より、示方書 2007 年版において乾燥収縮ひずみの限界値の上限が 800  $\mu$  まで引き上げられたが、その取り扱いに関して現場で問題が生じつつあり、それゆえ、その問題の解決に資するケーススタディーが必要だと考え、下村委員に収縮ケーススタディー作業部会の設置を依頼したことが説明された。続いて、下村委員より以下の説明がなされ、作業部会の設置が認められた。

- ・ 設計計算例の作成と示方書改訂資料の収縮に関する部分の丁寧な解説を目的とする。次期示方書の改訂準備作業とは切り離して考える。
- ・ 2009 年度中の完成を目指す。
- ・ メンバーは道路や鉄道を含む 10 名とオブザーバーとして阪田顧問と石橋委員に加わっていただく。
- ・ 最終的な成果が、技術シリーズになるかライブラリーになるかは決まってない。

引き続き、岸幹事長より、この作業部会の活動費として示方書改訂小委員会（101 委員会）の予算を増額させた 11 月予算が提案され、これが了承された。なお、この増額分には、常任委員会用予算の一部が充てられている。

#### (4) 新規第 3 種委員会の設置【資料 4-5】

下村委員より、宮里先生提案の「材料劣化が生じるコンクリート構造物の維持管理優先度研究小委員会」の設置が付議され、これが認められた。引き続き、佐藤幹事より「コンクリート構造物のせん断力に対する設計法研究小委員会」の設置が提案され、これが認められた。なお、「材料劣化が生じるコンクリート構造物の維持管理優先度研究小委員会」は 342 委員会、「コンクリート構造物のせん断力に対する設計法研究小委員会」は 343 委員会となる。

最後に宮川委員長より、積極的に第 3 種委員会を提案してほしい旨、依頼された。

#### (5) 平成 22 年度全国大会共通セッションテーマの募集【資料 4-6】

服部幹事より説明があり、意見があれば幹事会へ出してほしい旨依頼された。

#### (6) その他

特になし。

### 4. 報告事項

#### (1) 平成 20 年度コンクリート委員会活動度評価結果について【資料 4-7-1, 4-7-2】

信田幹事より、講習会の参加者数と刊行した書籍の販売部数、委員会の収支、活動状況の内容の 3 つの評価項目すべてが A 評価であり、総合評価も平成 18・19 年度に続き A 評価であることが紹介された。その後、以下の質疑があった。

- ・結果は公表されるのか。  
→公表されていない。
- ・C 評価の委員会はどの程度あったのか。  
→今年度はない。28 の委員会のうち、A 評価の委員会数が 16、B 評価の委員会数が 12 であった。
- ・コンクリート技術シリーズは書籍の販売部数に含まれているのか。  
→出版委員会の対象ではないので入っていない。講習会等への参加人数として間接的に評価されている。
- ・管理費は粗収益に入っているのか。  
→入っている。

#### (2) 平成 22 年度事業計画及び予算要求調書（調査研究費分）【資料 4-8】

岸幹事長より、調査研究費による活動費用として 1264 千円を、受託研究費として 5000 千円を予算要求額として提出した旨報告された。

#### (3) フライアッシュ有効活用調査小委員会指針（案）の発刊について【資料 4-9】

坂井委員から平成 22 年 2 月 9 日に報告会を開催するとの説明があった。

ライブラリーのタイトルが「設計施工試案」となっているが、これは、「設計施工指針（試案）」の誤りではないかとの指摘があり、フライアッシュ有効活用小委員会において確認することとなった。

#### (4) 国際構造工学会（IABSE）法人会員継続（分担）について【資料 4-10】

岸幹事長より、IABSE 法人会員継続のお願いが日本支部世話人の藤野先生より届いており、土木学会が法人会員費を学会としては支払えないことが説明された後、コンクリート委員会としても法人会員になることの意義は大きく、鋼構造委員会、構造工学委員会、複合構造委員会と会費を分担して会員継続することが提案され、これが了承された。なお、今年度のコンクリート委員会の負担額は 45000 円である。

#### (5) モンゴルの設計基準策定への協力について【資料 4-11】

土木学会全国大会開催時に開催された JSCE-MACE 1<sup>st</sup> Steering Committee に出席した佐藤幹事から会

議の概要が説明された後、以下の意見が出された。

- ・ JASS5 を送ったとのことであるが、建築分野には他にもコードがあり、どのコードを送るべきか検討した方が良い。
- ・ 予算措置はどうなっているのか。国土交通省がサポートするのかどうかを確認した方が良い。  
これらの意見への対応は、コンクリート委員会側の窓口である中村委員に依頼する。

#### (6) 平成 22 年度出版計画について【資料 4-12】

岸幹事長より、来年度の出版計画がある場合には平成 22 年 9 月 25 日までに出版企画書を提出してほしい旨依頼された。インフラマネジメント小委員会が出版予定であることが確認された。

#### (7) 今後の英文出版物の公開方法について

岸幹事長より、今後学会としては英文図書を出版せず、pdf にして無償公開することを考えており、示方書の英訳版に関しても原則として無償公開することになると思われるが、海外に行く際には、たとえば技術シリーズとして印刷するなどして、冊子として持っていけるようにしておくべきかどうか、ここで少し意見交換したい旨述べられた。その後の意見交換の概要を以下に示す。

- ・ ステンレス鉄筋の指針は、HP にアップして自由にダウンロードできるようになっている。
- ・ フライアッシュの指針の英訳版は用意できるのか？  
→ 検討する。
- ・ ウェブ公開する場合も書式を統一した方が良い。また、コピーライトについても明確にしておいた方が良い。  
→ 今日の意見に基づき、幹事団で案を作成する。

#### (8) 3 種委員会委員の追加・公募【資料 4-13】

岸幹事長から「構造物表層のコンクリート品質と耐久性検証システム研究小委員会（335 委員会）」の委員の退任、追加の説明があった。

#### (9) 平成 22 年度重点研究課題助成の募集について

信田幹事より、正式な依頼がまだ届いていないが、平成 22 年度重点研究課題助成への応募を考えておいてほしい旨依頼された。なお、募集期間は 1 月 22 日から 2 月 19 日が想定されている。土木のイメージアップに繋がるテーマが求められている。

#### (10) 講習会・シンポジウム等開催案内・報告【資料 4-14-1,4-14-2,4-14-3】

- ・ 武若委員に代わり服部幹事から、338 委員会の報告会（コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術に関するシンポジウム）が 10 月 16 日に土木学会講堂にて開催されたことが報告された。
- ・ 岸幹事長より、216 委員会の報告会（コンクリート構造物の表層品質評価技術と耐久性検証に関するシンポジウム）が 11 月 17 日に土木学会講堂にて開催されたことが報告された。
- ・ 若手／中堅実務者のためのコンクリート技術講習会（資料 4-14-1）が、2009 年 12 月 4 日（金）13:00～18:00 大阪の建設交流館にて開催される。
- ・ コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウム（資料 4-14-2）が、2009 年 12 月 7 日（月）13:00～17:10 土木学会講堂にて開催される。
- ・ 熊本大学主催 極限を制御せよ（資料 4-14-3）が、2009 年 11 月 20 日から 11 月 29 日に国立科学博物館で開催される。
- ・ 堺委員より、ギリシャとのジョイントセミナーをギリシャにて開催したことが報告された。なお、日本側が提供した話題は、再生コンクリート（堺委員）、耐震（中村委員）、ステンレス鉄筋（下村委員）で

あり、ギリシャ側の話題はユーロコードのアナウンスであった。

(11) その他

堺委員より、民主党のキャッチフレーズ「コンクリートから人へ」に対して、土木学会コンクリート委員会として何らかのアクションを起こすべきではないかとの意見が出された。その後の意見交換で、キャッチフレーズの「コンクリート」は「公共投資」を指しており、その意味で、コンクリート委員会としてではなく、土木学会としてアクションを起こすべきであるとの意見も出された。最終的に、アクションを起こすべきか否か、また、起こすとすればどのようなアクションが適切か、幹事団で議論することとなった。

5. その他

次回幹事会：2010年1月19日（火）（案件の締切りは前日の1/18）

第4回常任委員会：2010年1月28日（水）14:00～17:00 土木学会

以 上